

大学院ニュースレター

久留米大学大学院医学研究科

第53号／2009年12月25日発行

編集／医学研究科長

『学びの扉を開けよう』

外科学講座 白 水 和 雄 教授

新臨床研修制度がスタートして以来、卒後臨床研修はどこで受けてもよいことになった。大変素晴らしいことだと思う人もいるかもしれないが、このような研修制度は即撤廃すべきであると言う人もいる。

そもそもこの研修制度に対する厚生労働省の狙いは、医局制度を崩壊させることにあると聞いている。その思惑通り、若い医師は地方を見捨て都会の病院へと流れていった。そして、医局という縛りを毛嫌いし自由な診療を求め、待遇の良い、高収入の得られる病院を選び大学病院を去っていった。その結果、大学入局者が減少し、地方への医師派遣が不可能となり、地方の病院には医師不足という深刻な状況に陥った。事実、医師不足による病院閉鎖は日常茶飯事の社会現象になっている。

若い医師は、これからどのように医療と向き合っていくのか、どのように学問をしていこうとするのか、私にはよくわからない。2年間の研修を終了すれば、当然どこかの大学の医局に入局し大学人になるはずであると思っていたが、誤りであったことに気づくのにそう時間はかからなかった。大学以外の研修指定病院の戦略は、あらゆる手練手管を講じ必死の思いで研修医獲得に努力している。高額給料を支払い、腫れ物に触るような好待遇で宝物扱いにしているようだ。学位取得よりも実質的な専門医を取得したほうが得策などとまことしやかな

風評もある。事実、若い医師の大多数は、学位取得よりも専門医を取得することのほうが大事であると考えている。専門医を取得し、第一線の病院で活躍できる夢を追い求めている。悪夢としか言いようがない。このような医療制度でよいのか。

専門医を取得するには、診療だけでなく学問をしなければならない。学問の基礎をしっかり身に付け、これを臨床に応用することが重要である。大学以外では学問の基礎を教えることが不可能だとは言わないが、大学という最高学府での診療は、良質の医療を施し、地方では行えないような高度の医療を提供することにある。指導者自身も日々勉学に励み、常に最高の医療を提供することを考えている。これが大学の使命である。大学病院とそれ以外の病院とでは、疾患の重傷度に難易度があることは誰もが承知している。大学病院でしか経験できないような治療に難渋する症例も多く、ほとんどが大学以外の病院からの紹介である。このような難渋する症例に対して、どのようにアプローチし正しい診断を下し、治療方針を立てていくのか、大学でも悩むことも少なくない。かすかな明かりを見出し、ここを突破口にして治療を成功に導いたことも数多い。幾度となく苦労を重ねながら診療を行い、患者に恩恵を与えることが医療の原点である。医学の基礎は常に考える癖を持つことである。

学位とは、理路整然と物事を考え、正しい結論を導き出す学問の一つに過ぎない。いわば、理論的に物事を考える学びの扉であり訓練の場と言えよう。医学の基礎を叩き込まれる最初の扉である。久留米大学の学位論文はほとんどが英文である。英文文献を沢山読み、英文で論文を書いて欧米雑誌に投稿し、欧米人の高い評価を得て論文がアクセプトされる。その後、学位論文の審査という過程を経て学位を取得することができる。はじめて研究という仕事に携わり論文を苦勞しながら完成させ、博士号の証書を受け取った時の達成感、満足感は学位を取得した者にしか味わえない感激である。学位は必要ない、専門医さえ取得すれば、それで満足だと思ふ学生や若い医師がいるとすれば、もう一度、よく考えて行動してほしいものである。専門医取得は重要であることは言うまでもない。そこに博士というブランドがあってこそ、より他人の見る目も違うであろう。

将来、専門医が関与する診療には、診療報酬が上乘せされる時代が必ず来ることは間違いない。それ故、専門医の試験も難しくなるに違いない。生半可の知識では専門医試験にも合格しないであろう。学位あつての専門医であることを忘れないでほしい。そのためには、大学を見つめ直してほしい。今からでも遅くはない。扉を開けよう。大学はきつい、給料が安い。そんな所で、苦勞したくないとよく言われる。しかし、楽な人生に何の生きがいがあるろう。苦勞があり、これを克服してこそ、そこに人生の意義を見つけることができよう。



ティールーム



感染制御看護 (ICN) に関する 記念講演会、特別講義が開催される！！

先号でお伝えしましたように、文部科学省研究拠点形成費等補助金（若手研究者養成費）「組織的な大学教育改革推進プログラム」に本学修士課程の「感染制御看護師（ICN）養成プログラム」が採択されました。それを記念し、12月15・16日の2日間にわたって、現在オーストラリアでICNとして活躍されているSiew Stielow先生をお招きし、記念講演会および特別講義を開催しました。



Siew先生を囲んで
（右より川野先生、渡邊教授、Siew先生、通訳のサザランドさん、三橋教授、立石先生）



久留米大学筑水会館では特別講義として実施されました（右より Siew 先生、通訳のサザランドさん）

Siew Stielow 先生は、2003年に起こった SARS 拡大の際に、中国で ICN として世界保健機関（WHO）で働かれたご経験をお持ちです。また、現在の活躍の場であるオーストラリアでは、南半球にあるため寒暖が日本と逆転していることから、早くに新型インフルエンザのピークを経験されています。

アウトブレイク発生時の対処方法、院内感染防止や対策について、実体験に基づくお話に、参加者は看護師として現場に立たれる方が多くいらっしゃったこともあり、皆熱心に耳を傾けておられました。

本プログラムでは今後も、国際的に活躍される講師をお招きし、講演会やセミナー等を実施する予定です。専攻者に限らず、少なからず興味・関心のある方は、ぜひお問い合わせの上ご参加ください。

お知らせ

感染制御看護師（ICN）養成プログラムのHPを新設しました！感染看護に関するセミナー情報など、こちらからご確認いただけますのでぜひご覧下さい。

アドレス <http://icn.kurume-u.ac.jp/>

事務通信



大学院セミナーシリーズ特別講義 1月以降分の日程のお知らせ

1月以降分の特別講義の実施について、日時確定分を下記にご案内いたします。当該科目履修者は、ご確認の上、受講いただくようお願いいたします。

担当講座	講義日時	会場	講演者	講義テーマ
先端癌治療研究センター（臨床研究部門）	1月7日（木） 17:00～18:30 【日時確定】	基礎1号館2階 会議室	自然科学研究機構生理学研究所・ 教授 池中 一裕 先生	グリア細胞の機能 とその病態
解剖学講座 顕微解剖・生体 形成部門	1月15日（金） 18:00～19:30 【日時確定】	基礎1号館2階 会議室	九州大学大学院医学研究院 SSP 幹細胞ユニット・特任准教授 杉山 大介 先生	造血機構の動作原 理に基づく幹細胞 操作技術の開発

◆修士課程第2学年学生の皆様へ◆

学位論文提出と年度末スケジュール



1. 学位論文申請書類と提出期限

〔提出期限：平成22年1月22日（金）17時（時間厳守）までに庶務課に提出〕

- ※①学位論文審査願：1通
- ②主論文：5通（印刷公表が望ましい）
- ③参考論文：各3通（作成している者のみ）
- ④論文目録：1通
- ⑤論文要旨：1通
- ⑥履歴書：1通
- ⑦単位修得証明書：1通（教務課にて準備する）
- ⑧写真（4×3cm）：1枚

申請書類については、大学院ホームページ（<http://gmed.kurume-u.ac.jp/>）の書式ダウンロードページよりダウンロードして下さい。また、申請書類のうち①～⑥については、下書きを提出締切日前に学位担当〔医学部事務部庶務課：阿久根（内線3014）E-mail：akune_kanako@kurume-u.ac.jp〕に提出し、事前にチェックを受けられるようお願いいたします。

- 2. 口述試験〔期間：平成22年2月1日～2月18日〕
- 3. 最終審査〔平成22年2月24日〕
- 4. 学位記授与式〔平成22年3月24日11時～〕



◆博士課程第2学年学生の皆様へ◆

研究題目調査実施について

博士課程第1学年学生の皆様を対象に平成22年2月中旬ごろ研究題目調査を実施します。この調査は博士課程在学中の各自の研究テーマを調査するためのもので、久留米大学院医学研究科規程第9条に基づき、第2学年前期の始まる前までに決定することと定義されております。調査書類が届きましたら、必要事項記入の上、期日までに必ず医学部事務部教務課まで御返送下さい。



◆博士課程第4学年学生の皆様へ◆

学位論文提出の手続きはお済みですか？

博士課程第4学年学生の皆様で今年度中に学位論文提出手続きの修了を希望されておられる方は、既に配布したスケジュールに沿って提出をお願いします。なお、提出されない方については、平成22年2月中旬ごろを目途に医学部事務部教務課から「在学期間延長・単位修得満期退学希望調査」を実施しますので、その際にご回答をお願い致します。

お知らせ 

解剖学講座セミナーのご案内

下記日程にて、大学院生を対象とした解剖学講座主催のセミナーが開催されます。興味・関心のある方はぜひ奮ってご参加ください。

1. 演者 Dr. Giorgio Gabella (University College London)
演題 Motor and sensory nerves in rat bladder
日時 平成22年2月12日(金曜日) 18:00～
場所 基礎1号館2階 会議室
2. 演者 Dr. Rhodri E. Jones (University of Nottingham)
演題 未定
日時 平成22年2月19日(金曜日) 18:00～
場所 基礎1号館2階 会議室

お問い合わせ先.....解剖学講座 顕微解剖・生体形成部門

※セミナーの詳細については、後日各講座へ配布するお知らせをご覧ください。

第5回「ロレアル - ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」募集について

ロレアル・ユネスコ女性科学者日本奨励賞事務局より、生命科学、物質科学の分野において、博士課程に在籍または進学予定の40歳未満の女性で、交付後1年間国内で教育・研究に従事できる方を対象に、奨学金無償給付のお知らせが届いております。募集に関する詳細についてはロレアルホームページ (<http://www.nihon-loreal.co.jp/ja/jp/index.aspx>) にて各自ご確認ください。

前期入学試験結果発表!!

10月21日に行われた前期入学試験の結果は下記の通りです。
後期試験については次項のとおり実施します。

	修士課程	博士課程
志願者	10名	6名
受験者	10名	6名
合格者	8名	6名

平成22年度大学院医学研究科後期入学試験のお知らせ

【試験日程】修士・博士ともに同一

出願受付期間：平成22年1月18日（月）～平成22年1月29日（金）

※例年より出願受付期間を若干早めています。

また、他に出願資格審査申請受付期間を設定していますのでご注意ください。

試験期日：平成22年2月16日（火）

合格発表：平成22年3月12日（金）午前10時

【試験内容】

*修士課程

英語・小論文・面接 <<基礎医学・社会医学・分子生命科学・臨床看護学群>>

英語・面接 <<バイオ統計学群>>

*博士課程

英語・面接

別途、科目等履修生も募集しております。身近な方で、医学研究科に興味・関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、どうぞ周知の程よろしくお願ひします。

編集後記

先日久留米にもこの冬初めて雪が舞いました。寒さが日に日に増しています。

同時に、インフルエンザ流行の時期にもさしかかっています。11月には、医学科1～3年生で学年閉鎖になる事態でした。

体調管理には十分留意され、良いお年をお迎えください。来年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。(中)

